

令和4年度 学校評価

■ そう思う
 ■ どちらかといえば、そう思う
 ■ どちらかといえば、そう思わない
 ■ そう思わない
 ■ わからない

①いのちを大切にする心の教育の充実といじめや不登校への細やかな対応

1 一人一人の児童生徒の尊重	2 道徳・心の教育の充実
学校は、一人一人の子どもを大切にされた指導や対応ができていますか。	学校は、豊かな人間性を育む心の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）
<p>考察○今年度もコロナ禍での感染防止対策を講じながらの学校生活であるが、児童の気持ちに寄り添った対応を心がけてきた。「一人一人の児童生徒の尊重」に関しては、児童の83%が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答しており、前年度より-9ポイントであり、保護者も79%が同様の内容に回答しており、昨年度より-4ポイントである。今後はさらに児童の気持ちに寄り添った対応が必要と考える。</p> <p>○道徳の授業では、「考え、議論する」授業実践を行っている。その結果、児童も問題を自分事として捉えることができるようになってきている。また、「豊かな人間性を育む心の教育の充実」の項目においては、保護者の80%が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答しており、昨年度とほぼ変わらない。今後も、豊かな人間性を育む心の教育の充実に向けて、読書活動等に取り組んでいく。</p>	

②確かな学力の向上と社会の変化に対応した教育の推進

3 授業力向上	4 タブレット端末活用
先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。	子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。
<p>考察○教職員は、タブレットを活用し意見の集約や比較をするなどの工夫を授業で行っている。100%の教職員が、「わかる授業、楽しい授業づくりに努めている」と回答している。その成果もあり、意欲的な学習態度に関しては、82%の児童が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」という回答している。しかし、昨年度と比較すると-10ポイントとなり、授業力向上が学力の向上に繋がっており、今後さらに授業づくりについては取り組む必要がある。また、「わかる授業、楽しい授業づくり」について、保護者の82%が、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答しており、前年度とほぼ変わらない。</p> <p>○「タブレット端末活用」について、保護者の90%が、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答しており、昨年度より5ポイント上がっており、今後もタブレットを活用した取り組みを続けていく。</p>	

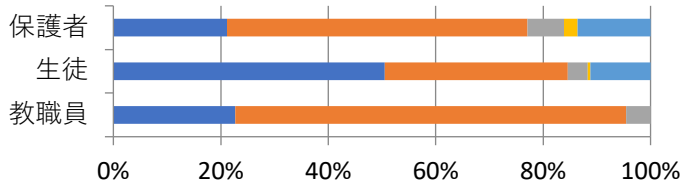
③教員が子どもと向き合うための体制の整備

5 学校の支援体制	6 共生社会を担う人材の育成
学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。	学校が行っている「交流及び共同学習」等は、相互理解につながっていると思いますか。
<p>考察○支援体制に関しては、74%の保護者が、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答しており、昨年度より7ポイント下がった。教師が一人一人の児童をしっかりと見つめ、認めていくという意識を持って対応しているが、昨年度より数値が下がったことを謙虚に受け止め、更に一人一人に丁寧な対応をしていかなければならない。</p> <p>○特に支援の必要な児童に関しては、校内委員会等を定期的実施し、共通理解の下、当該児童への支援を行っている。支援を必要な児童を含め、全児童を大切にするという意識をもって教育を進めている。約7%の保護者は不十分であると評価している。通信や懇談会、教育相談などを活用し、子どもたちの様子を伝えながら、保護者との連携をさらに深めていくことができるよう努めていく。</p>	

④ 学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進

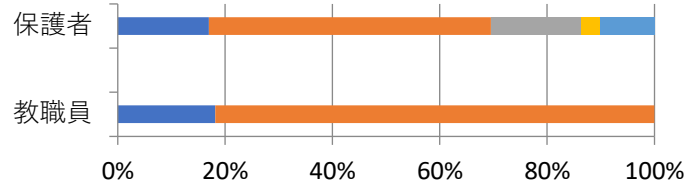
7 安全と事故防止

学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。



8 家庭や地域との連携協力

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。



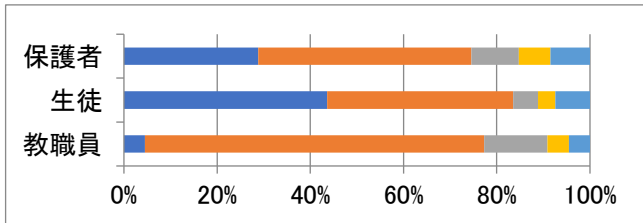
考察○防犯・交通安全に関しては、地域の協力が事故抑止力になっている。保護者の77%が、「学校が安全教育に取り組んでいる」と回答している。昨年度より+6ポイントである。今後も、学校安心安全メールやHPを活用した学校だよりの配付、学年・学級通信等で保護者や児童へ、さらに安全教育の啓発を行っていく。

○今年度は、総合的な学習の時間や図画工作の時間を通して、地域の老人会や民生委員の方々との交流を行うことができた。また、あいさつ運動や交通指導、防犯パトロール等は例年通り実施でき、安全・安心な校区づくりに繋がった。今年度も学校安全対策協議会を実施し、学校の現状を発信し関係者と校区の安全意識について高めることができた。

⑤ 本校の教育

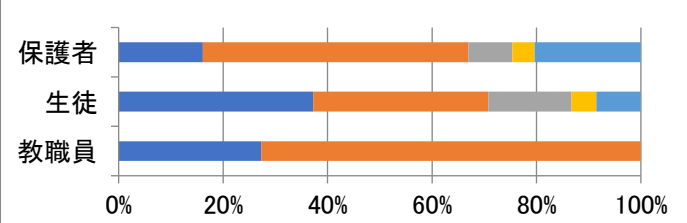
9 「あ・そう・だ」運動の積極的な展開と強化

「あ・そう・だ」運動は、定着していると思いますか。



10 英語教育と図書館教育の充実

学校は、コミュニケーション力及び表現力の向上に取り組んでいると思いますか。



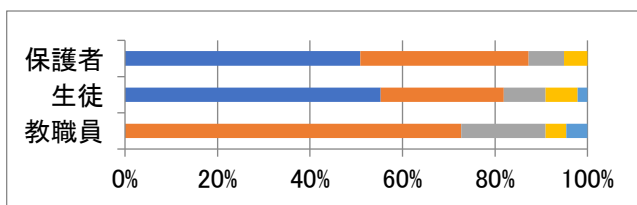
考察○保護者、児童、教職員で、意識の差があるが、生活委員会をはじめ各委員会の取り組みもあり、「あそうだ」運動に関しては、84%の児童が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答しており、その定着が見られる。しかし、昨年度から-8ポイントである。さらに学校全体での取り組みが必要である。

○「英語教育と図書館教育の充実」で、67%の保護者が、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答しているのに対して、教職員は、100%「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答している。教職員と保護者の意識の差があり、今後は、保護者へ学校の取り組みや児童の様子を通信やホームページ等で、知らせる必要があると考える。

⑤ 本校の教育

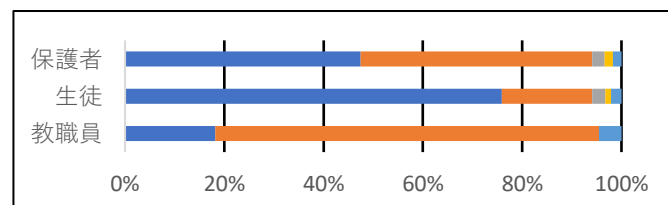
11 早寝・早起き・朝ごはん、遅刻解消の取り組みの強化

子どもは、「早寝・早起き・朝ごはん」が実践でき、遅刻せずに登校できていると思いますか。



12 友達への思いやり

子どもは、友達となかよくしていると思いますか。



考察○「早寝・早起き・朝ごはん」の実践で、保護者は、87%「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答している。昨年度より+7ポイントであるのに対して、児童は、昨年度より-8ポイントである。また、教職員は-1ポイントであった。本校の課題の一つとして、不登校児童の多さが挙げられる。この課題解決に向けては、家庭の協力も必要であるが、まだ保護者、児童と教職員の意識の差が大きい。この差を埋めるべく、家庭と連携して遅刻児童や不登校児童数の減少に向けて取り組んでいく。

○友達と仲良くできていると回答した児童は94%で、前年度と変わらない。また、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した保護者は、94%で、昨年度と比較すると+6ポイントである。今後も、児童の様子を保護者へ伝えていく必要がある。

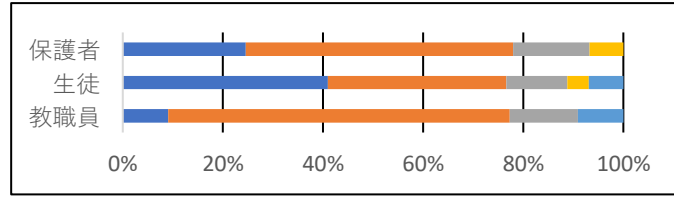
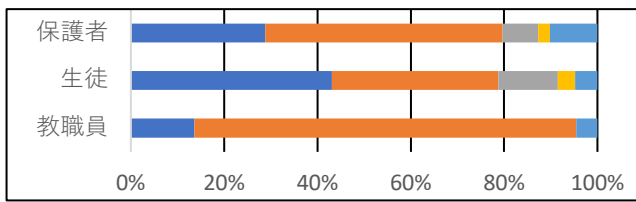
⑤ 本校の教育

13 意欲的な学習態度

14 健康づくり

子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。

子どもは、好き嫌いなく食事をし適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。



考察○教師も電子黒板やタブレットの活用に慣れ、活用の幅を広げている。ICTを活用したわかりやすい授業づくりに取り組んでいる成果もあり、意欲的な学習態度に関しては、79%の児童が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」という回答をしている。昨年度と比較すると、-12ポイントとかなり下がっている。児童の授業に対する意欲の低下が見られる。今後は、校内研修で授業づくりの研修を取り入れ、教職員の授業力を上げ、児童が意欲的に参加できるように取り組んでいく。

○「健康づくり」の項目では、児童、教職員は77%、保護者は78%「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答しており、児童・保護者と教職員の差が小さい。また、昨年度と比較すると、児童は-8ポイント、保護者は+5ポイント、教職員は+7ポイントであった。児童、保護者、教職員の意識の差がある。今後も家庭と連携しながら児童の健康づくり（特に早寝・早起き）に取り組んでいく。

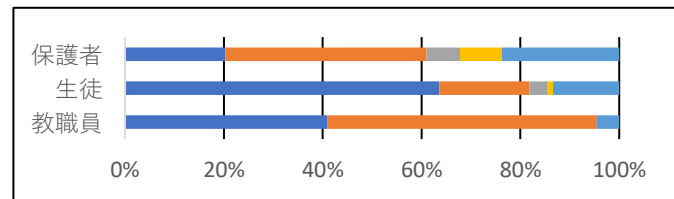
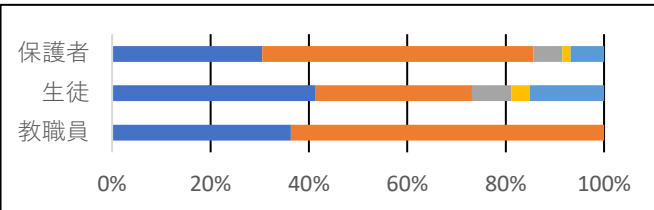
⑤ 本校の教育

15 児童生徒理解

16 いじめや問題への対応

先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようと努めていると思いますか。

学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。



考察○「児童生徒理解」の項目では、児童は72%、保護者は86%、教職員は100%「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答している。昨年度と比較すると、児童は-19ポイント、保護者は+4ポイントであった。保護者の教職員への理解はあるが、児童が、「先生方が自分のことを分かってくれていない。」と感じている。今後は、児童理解について研修を深め、教職員が児童にさらに寄り添っていく必要がある。また、「どちらかといえば、そう思わない」「そう思わない」に関しては、保護者が8%で、昨年度より下がっている。今後も家庭と連携しながら一人一人の児童に寄り添い、適切な支援に取り組んでいく。

○「いじめや問題への対応」の項目では、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」が、保護者は61%、児童は81%と差がある。また、昨年度と比較すると、児童は-12ポイント、保護者は-16ポイントとかなり下がっている。今後は、「いじめや問題への対応」に関しては、報告、連絡、相談を迅速に行い、初期対応を丁寧にするよう取り組んでいく。また、職員研修の中に、定期的にいじめ問題対応について取り上げ、職員全体でいじめに対する意識を高め、いじめ問題に全力で取り組む姿勢を構築する。

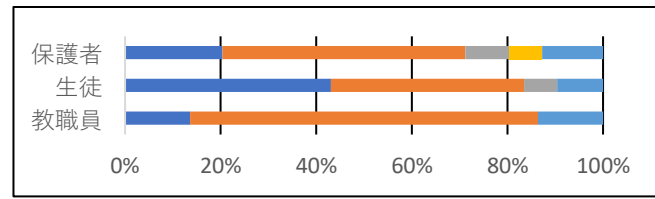
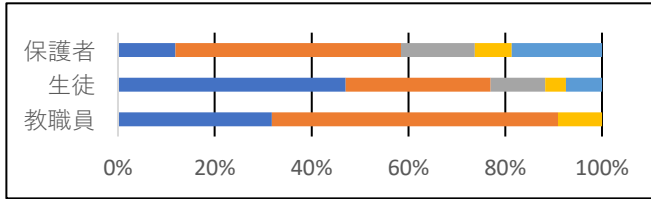
⑤ 本校の教育

17 施設・設備の安全管理

18 教育方針・目標の理解

学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。

学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者、地域にわかりやすく示していると思いますか。



考察○校舎も老朽化してきており、毎月の施設安全点検を入念に行うとともに、不備がある場合は担当者、学校主事補助を中心に迅速に修繕等の対応を行っている。校庭には樹木が多く、蜂などが樹木に寄って来て児童に危害を及ぼすことがあったため伐採を行った。
○今年度も軒先での家庭訪問、感染対策のため人数制限による授業参観を実施した。直接保護者に対して学校や学年・学級の教育方針を説明する機会は少なかったが、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と保護者が71%、児童が84%回答している。昨年度と比較すると、保護者が-5ポイント、児童が-7ポイントであった。今後は、教育方針や教育目標などをホームページや学校だより、学年・学級通信等を通して分かりやすく伝えていく必要がある。

来年度の具体的な取組について

- 教育目標や経営方針については、学校だよりや学年・学級だより、HP等を通して情報発信を行う。保護者や地域と連携しながら「礼・学・体」の調和のとれた児童の育成を目指す。
- 児童一人一人に丁寧に寄りながら信頼関係を構築していく。必要に応じて、SCやSSWほか関係機関と連携して支援を行っていく。
- タブレット端末の工夫した活用ができつつある。指導力の向上も見られるので、さらにICTも活用し、授業づくりを工夫、実践していく。教師に「教わる」授業から児童自身が「学びとる」授業へと授業改善を図り、新しい時代に必要となる資質・能力の習得を目指していく。
- 家庭学習に関しても、タブレット端末を活用し、個の到達度に合わせた学習ができるようにし、個別最適化を目指す。
- 市学力調査や全国学力調査の結果を受けて児童の学力を分析し、習得が不十分な内容の定着を図るとともに、事後の指導の工夫改善に努める。
- 「あそび運動」は児童にほぼ定着し、行動にも繋げることができている。地域や家庭へも学校の取り組みの周知を更に図っていく。
- 「麻生田小のくらし」については、随時見直しを行い、児童が自ら判断し、行動できる児童の育成を目指す。

学校関係者評価

○「一人一人の児童生徒の尊重」「学校の支援体制」「共生社会を担う人材の育成」「安全と事故防止」の項目で、教職員の「そう思う」の数値が前年度より下がっている結果は、教員の欠員に伴い、保護者対応、子どもの対応、授業の準備などやらなければならない業務、やらざるを得ない業務が過多になり、子どもとかかわる時間が削られているのではないかと心配される。教職員に保護者や地域などから求められている内容が広範囲にわたりにかなりの量があるので、教職員に負担がかかり、疲弊し、それが要因となり、「意欲的な学習態度」「児童生徒理解」「いじめや問題への対応」での児童生徒、保護者の数値が下がっていることにつながっているのではないかと。今後保護者、地域との連携を深め、さらに理解を促進し、学校、児童生徒、保護者、地域が一体となった学校教育、運営が望まれる。